資料4

能代港取扱貨物量の計画、実績の差異についての分析結果報告

能代港取扱貨物量の計画、実績の差異についての分析結果報告

平成18年度事業評価監視委員会（第1回）の事後評価案件「能代港大森地区多目的国際ターミナル整備事業」の審議においては、「改善措置及び今後の事後評価の実施の必要性はない」との対応方針（案）は妥当であるとの結果となっているが、別途以下の意見をいただいた。

【意　見】

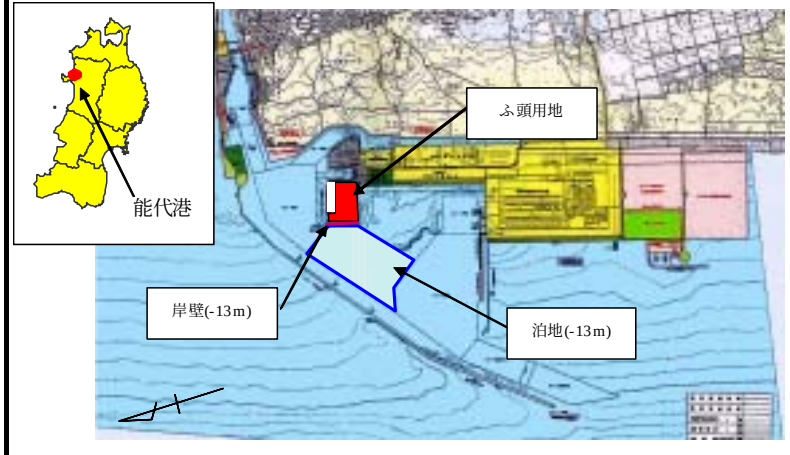
「能代港大森地区多目的国際ターミナル整備事業」について、取扱貨物量の計画と実績に差異が生じた原因について分析を行うとともに、リサイクルポートの実現など官民を挙げた利用促進活動に努めること。」

今回、能代港取扱貨物量の計画、実績の差異についての分析を行い、その結果を報告するものである。

事業名（所在地）	能代港大森地区多目的国際ターミナル整備事業（秋田県能代市）

事業の概要

整備施設		事業期間
中心的施設	岸壁（－１３m）	平成５年～平成１２年
関連施設	泊地、ふ頭用地	平成６年～平成１３年
事業費	７１億円（国：６３億円、県：８億円）	



多目的国際ターミナル整備による効果		
	便益として計算する効果	①陸上輸送コストの削減（輸送コスト削減便益）
	定性的に把握する効果	②既存ターミナルの混雑緩和

■事業の効果

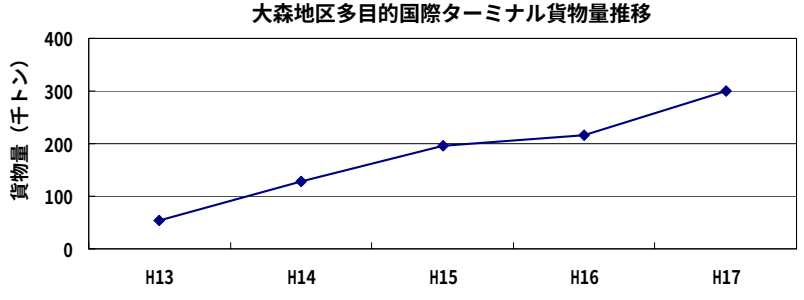
B：便益（現在価値化後）	１３５億円
C：費用（現在価値化後）	１０２億円
B／C：費用便益比	１．３

■取扱貨物量

現在供用されている大森地区多目的国際ターミナルの取扱貨物量

取扱貨物量 ： （計画） ５２８ 千トン

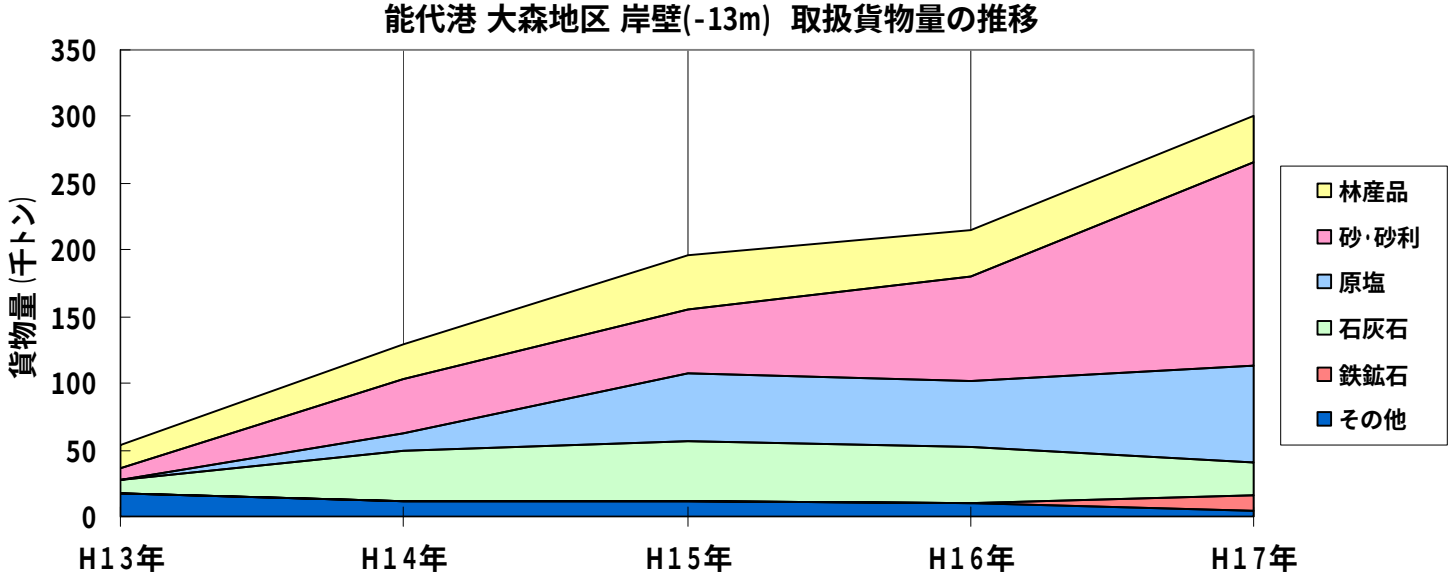
（実績） ３００ 千トン（H17速報値）



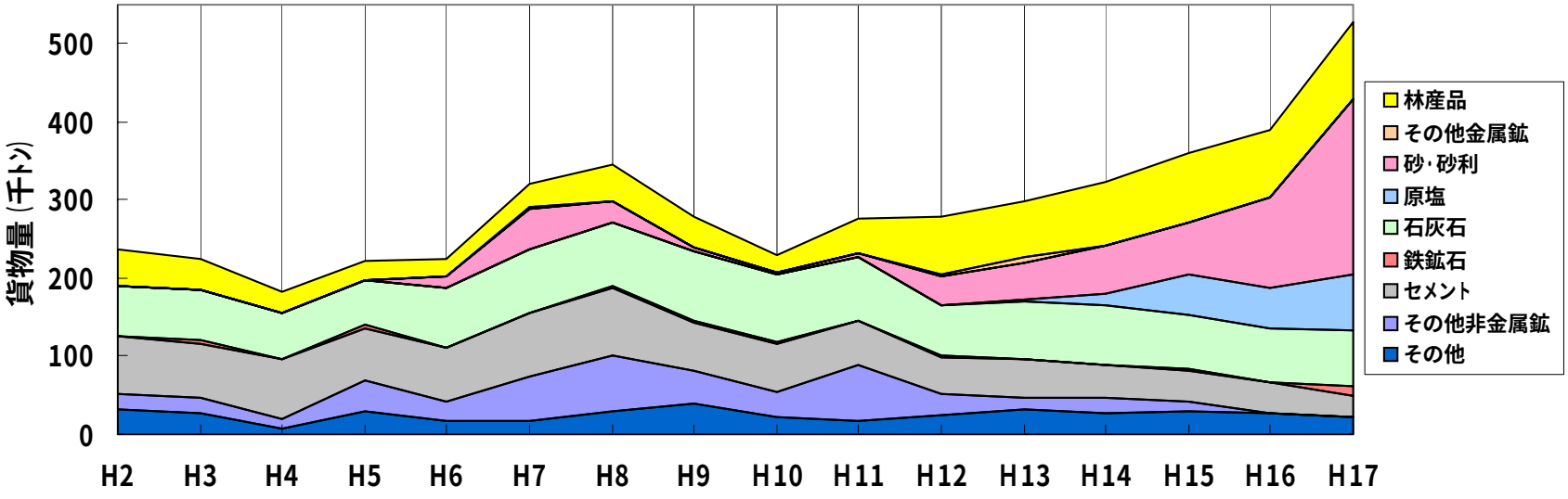
能代港 大森地区 岸壁（－13m）取扱貨物量

単位：千トン

品　目	H17計画貨物量	H17実績貨物量	H17取扱貨物量の計画と実績の差異についての分析
林産品	370	34	・好調な経済を背景とした住宅用建材等の大幅な需要が見込めなくなったため。
その他金属鉱	100	－	・企業による金属製錬の新規計画があったが、現在まで未実施。
砂・砂利	－	153	・県内産の砂・砂利の枯渇により、県外からの海上輸送増加。
原塩	－	72	・北東北エリアの融雪材として、大手商社がH14より能代港からの輸入開始。
石灰石	－	25	・能代港内の他バースからのシフトによる。
鉄鉱石	－	12	・県内企業の青森港から能代港への利用転換による新規貨物。
その他	58	4	・金属製品を生産する企業が増産を取り止め。木製品を生産する企業が倒産。
			■新規貨物の動向 近年は、官民挙げての能代港利用促進活動への積極的な取り組みにより、新たな貨物需要の動きが発生。 ・同和鉱業が、土壌浄化事業として汚染土壌や貴金属を含んだ廃棄物の能代港荷揚げの意向を表明。
合　計	528	300	



能代港　取扱貨物量の推移（能代火力発電所の取扱貨物は除く）



●能代港における新規貨物の動向


北羽新報

小坂製鉄
能代港利用へ切り替え
中国から輸入
鉄材の陸揚げ
距離的にメリット
従来は青森港
地元の要請に応える

平成17年12月
鉄鉱石の能代港荷揚げ開始
(北羽新報)


秋田

能代港を物流拠点に
同和鉱業が意向を伝える

平成17年12月
土壌浄化事業として、汚染土壌の能代港荷揚げ意向(毎日新聞)


リサイクル原料
東アジアから輸入
同和鉱業 能代で荷揚げ、小坂へ


同和鉱業・吉川社長に聞く
リサイクル原料を東アジアから輸入へ
能代の拠点化も重要

平成18年7月
電子基盤等の貴金属を含んだ廃棄物の能代港荷揚げ意向(秋田魁新報)